

国語＜小論文型サンプル問題＞

羽衣国際大学

受験番号							氏名

令和9年度 一般選抜＜小論文型＞

「国語」問題冊子

＜解答時間：60分＞

＜注意事項＞

- (1) 試験開始の合図があるまで、問題は開かないこと。
- (2) この表紙の下には、問題用紙【裏面あり】1枚、別紙資料1枚、下書き用紙1枚が綴られています。
- (3) 「解答はじめ」の合図があったら、問題用紙【裏面あり】、別紙資料、下書き用紙があるか確認しなさい。
- (4) 問題に関する質問は一切受付けないが、印刷の不鮮明な箇所やページの落丁、および解答用紙の汚れなどがあれば、手を挙げて監督者に知らせること。
- (5) 解答はすべて問題冊子の中にあるこの問題用紙【裏面あり】の①～⑤の欄に直接記入して解答すること。
- (6) 試験終了後は直接解答をした問題用紙【裏面あり】、別紙資料、下書き用紙すべてをこの問題冊子の中に入れて提出すること。

《国語＜小論文型サンプル問題＞》

受 験 番 号						氏 名	

次の文章は、小論文の下書きです。別紙の調査データや資料を参考にして、以下の①～⑤に従って、続きを作成しなさい。

- ① 資料から必要な箇所を端的にまとめ、それぞれ 20 字前後で答えなさい。
- ② 資料から読み取り、[] に適切な数値や語句を書き込みなさい。
- ③ 文脈に合う言葉を考えて（ ）に書き込みなさい。
- ④ 《4. キャッシュレス決済の課題や注意点》という見出しに合う文章を作成しなさい。資料の中から複数のポイントを抽出して具体的に説明すること。（目安 200～300 字）
- ⑤ 《5. 結論 》としてふさわしい文章を作成しなさい。資料を参考に、キャッシュレス決済を安心して利用できるようにするためには、事業者・消費者はそれぞれどのようなことを行うべきか、具体的な対策も示して、あなたの考えを述べなさい。（目安 250～400 字）

キャッシュレス決済の普及と課題

《1. 序論》

近年、スマートフォンを用いたQRコード決済やクレジットカードなどの「キャッシュレス決済」が急速に普及している。政府としても推進している。現金を持ち歩く必要がない利便性や、ポイント還元などの恩恵があり、生活の中に浸透しつつある。

しかし、その一方で、これまでにない新たなトラブルや過剰消費のリスクも急増している。

本レポートでは、キャッシュレス決済の現状をデータから整理し、課題と活用について考察する。

《2. 国がキャッシュレス決済を推進する理由》

- ① 主に以下の3点が挙げられる。

 - ・ ()
 - ・ ()
 - ・ ()

《3. キャッシュレス決済の現状》

- ② 経済産業省の「我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移（2025 年）」によると、キャッシュレス決済比率とその額は、2015 年に 22.5%（〔 〕兆円）を超え、2025 年には〔 〕%（〔 〕兆円）になっているとのことだ。
- その内訳は、クレジットカード〔 〕%（134.6 兆円）、コード決済 10.2%（16.6 兆円）、デビットカード〔 〕%（5.5 兆円）、電子マネーが 3.7%（6.0 兆円）だと報告されている。
- 消費者にとって、現金で支払うよりも〔 〕、〔 〕、〔 〕というメリットがあることも、キャッシュ決済の利用を後押ししている。
- ③ 販売者の設備が整い、消費者にキャッシュレス決済が（ ）ことが読み取れる。

《4. キャッシュレス決済に関する課題や注意点》

④

[illegible]

《5. 結論》

⑤

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

《国語＜小論文型サンプル問題＞ 解答例》

次の文章は、小論文の下書きです。別紙の調査データや資料を参考にして、以下の①～⑤に従って、続きを作成しなさい。

- ① 資料から必要な箇所を端的にまとめ、それぞれ 20 字前後で答えなさい。
- ② 資料から読み取り、[] に適切な数値や語句を書き込みなさい。
- ③ 文脈に合う言葉を考えて () に書き込みなさい。
- ④ 《4. キャッシュレス決済の課題や問題点》という見出しに合う文章を作成しなさい。資料の中から複数のポイントを抽出して具体的に説明すること。(目安 200～300 字)
- ⑤ 《5. 結論》としてふさわしい文章を作成しなさい。資料を参考に、キャッシュレス決済を安心して利用できるようにするためには、事業者・消費者はそれぞれどのようなことを行うべきか、具体的な対策も示して、あなたの考えを述べなさい。(目安 250～400 字)

キャッシュレス決済の普及と課題

《1. 序論》

近年、スマートフォンを用いたQRコード決済やクレジットカードなどの「キャッシュレス決済」が急速に普及している。政府としても推進している。現金を持ち歩く必要がない利便性や、ポイント還元などの恩恵があり、生活の中に浸透しつつある。

しかし、その一方で、これまでにない新たなトラブルや過剰消費のリスクも急増している。

本レポートでは、キャッシュレス決済の現状をデータから整理し、課題と活用について考察する。

《2. 国がキャッシュレス決済を推進する理由》

主に以下の3点が挙げられる。

- ① ・(人手不足の解消とレジ業務の効率化。(19 字)) ※それぞれ同意可
- ・(現金決済に伴うコストや盗難リスクの低減。(21 字))
- ・(訪日外国人需要への対応と経済の回復。(19 字))

《3. キャッシュレス決済の現状》

- ② 経済産業省の「我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移(2025年)」によると、キャッシュレス決済比率とその額は、2015年に22.5%([50.0] 兆円)を超え、2025年には、[58.0] % ([162.7] 兆円)になっているとのことだ。

その内訳は、クレジットカード [82.7] % (134.6 兆円)、コード決済 10.2% (16.6 兆円)、デビットカード [3.4] % (5.5 兆円)、電子マネーが 3.7% (6.0 兆円) だと報告されている。

消費者にとって、現金で支払うよりも [ポイントが貯まって利用できる]、[支払いや管理が簡単である]、[盗難や紛失の補償がある] というメリットがあることも、キャッシュレス決済の利用を後押ししている。

- ③ 販売者の設備が整い、消費者にキャッシュレス決済が (年々堅調に増加 / 大幅に上昇 / 浸透している / 定着しつつある) ことが読み取れる。※同意可

《4. キャッシュレス決済に関する課題や注意点》

④

利用する事業者にとって、初期費用や手数料の負担があるというデメリットがある。

また、消費者側のデメリットとして、現金と比べて支出の実感が薄れ使いすぎてしまう点、端末やカードの磁気不良が起こる場合がある点が挙げられる。そして、災害時に利用できなくなる点も注意点だ。

さらに、キャッシュレス決済の普及に伴い、セキュリティ面の犯罪や過剰消費のリスクが顕著になっている。

警視庁サイバー警察局の報告によれば、インターネットバンキング等の不正送金被害額は令和5年に約87.3億円に急増し、フィッシング詐欺等の報告件数も令和5年には約119万件に達している。

(265字)

《5. 結論》※問題文の指示が守れているか。

⑤

今後は、利便性の向上だけでなく、消費者が安心して利用できるセキュリティ体制の構築とそれに関する情報の周知が不可欠である。

経済産業省の調査によると、「日頃の利用行動から外れる支払の自動検知・ブロック」や「店舗でのカード情報の非保存化」などは、認知度に対して「安心安全につながりそう」と期待する割合が高い。

したがって、事業者側はAI等を用いた自動不正検知システムの導入やカード情報の暗号化・非保存化を進めるべきである。

消費者側への啓発活動を通じてセキュリティ対策の認知を高め、利便性と安全性が両立した環境を整えていくことが求められる。具体的なリスクと安全に使用するための注意事項について確認してから、使用を始めるような制度も必要だ。

消費者自身もオンラインショップを利用する際に、信頼のおけるサイトなのかどうかを確認するなどリスクについて知識を得るべきだ。(375字)

(※資料の引用については、出典・情報源の明記は不問とする。記載がなくても減点はしない。)

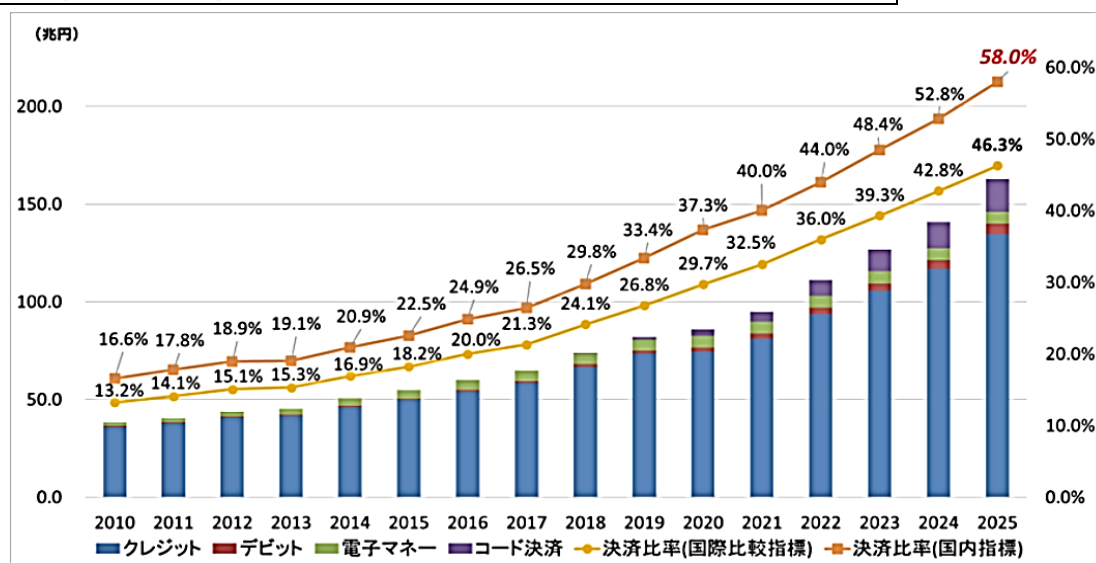
国がキャッシュレス決済を推進する主な理由

- ・人手不足解消と生産性向上です。パーソル総合研究所の調査によれば、2030年には644万人の人手が不足するといわれており、店舗でのレジ業務効率化のためにキャッシュレス決済が推奨されています。
- ・現金決済で発生するコスト・リスクの減少です。現金決済には手間と時間にくわえ人件費もかかります。また、レジ操作や現金受け渡しではミスが起こりやすく、現金は強盗や盗難の被害にも遭う恐れがあるでしょう。
- ・海外からの訪日客（インバウンド）への対応があります。インバウンド総数は2022年10月の入国規制緩和以降、増加し続けており経済回復のためにも大切な要素です。しかし、日本におけるキャッシュレス決済への対応比率は他先進国より低いいため、インバウンド需要への対応が不十分であり、今後いっそう普及が推進されていくと考えられます。

キャッシュレス決済のメリットとデメリット

- ①事業者にとってのキャッシュレス決済のメリット
業務効率化につながる/機会損失が減る/インボイス含め管理が楽になる
- ②消費者がキャッシュレス決済を利用するメリット
ポイントが貯まる・利用できる/支払い・管理が簡単/盗難や紛失の補償がある
- ③事業者がキャッシュレス決済を導入するデメリット・注意点
決済導入時の設備の初期費用/方法を覚える必要がある/手数料負担
種類が多くなると入金の把握がややこしくなる/災害時に使えない
- ④消費者がキャッシュレス決済を利用するデメリット・注意点
詐欺や不正利用のリスク/端末やカードの磁気の不具合の際に使用不可
現金よりも使った実感が薄く、使いすぎるリスクがある
高額なものをローンで購入した際には利子や手数料が必要となる

◆経済産業省[2026年3月]「我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移（2025年）」



報告の概要：2025年のキャッシュレス決済比率は堅調に上昇し、58.0%（162.7兆円）。その分子の内訳は、クレジットカードが82.7%（134.6兆円）、コード決済が10.2%（16.6兆円）、デビットカードが3.4%（5.5兆円）、電子マネーが3.7%（6.0兆円）である。

◆警視庁サイバー警察局

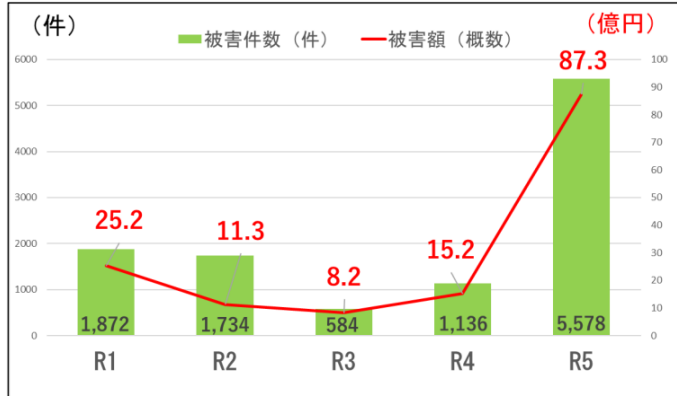
「キャッシュレス社会の 安全・安心の確保に向けた検討会 報告書」 令和年 6 年 3 月 21 日からの抜粋

・クレジットカードの不正利用やフィッシング詐欺 年間約 510.5 億円の被害。

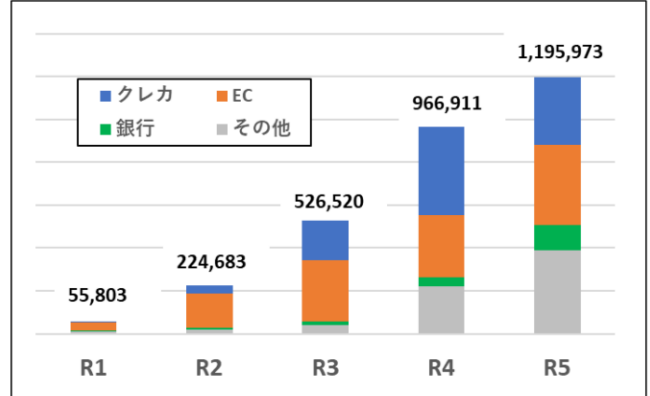
5 年間で倍増している。2019 年 274 億円→2024 年に 555 億円。

・クレジットカードオンライン・インターネットバンキングの不正送金 被害件数:5587 件/年間

被害総額:約 87.3 億円



インターネットバンキングに係る不正送金被害の発生状況



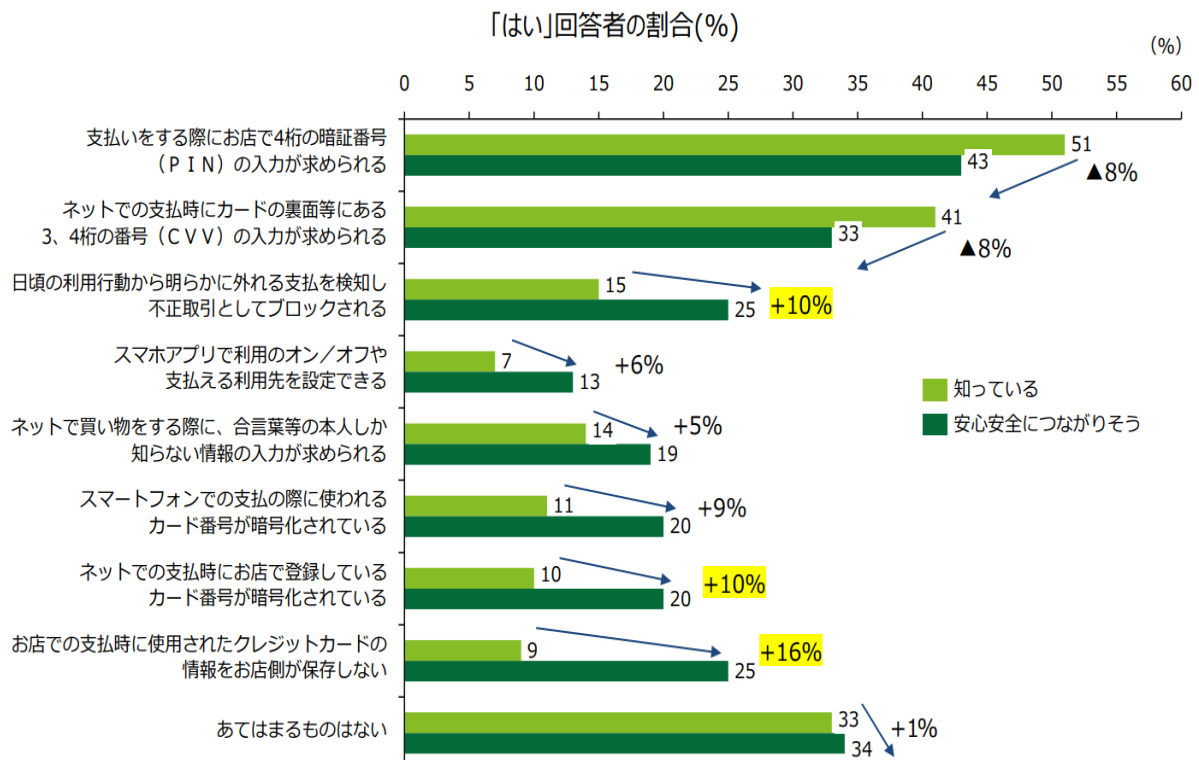
フィッシング報告件数

◆経済産業省商務・サービスグループキャッシュレス推進室「消費者実態調査の分析結果」 2024 年 3 月

不正対策の認知と効果についての印象

- 取引の自動不正検知や、加盟店でのカード情報の暗号化/非保存化を周知すべき

知っている/安全安心に繋がりそうと感じるセキュリティ対策



下書き用紙

氏名：